

1 いちご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
うどんこ病	—	やや少	・巡回調査の結果, 発生量は平年よりやや少なかった。(/ -)
ハダニ類	—	やや少	・巡回調査の結果, 発生量は平年より少なかった。(/ -)
コナジラミ類	—	多	・巡回調査の結果, 発生量は平年より多かった。(/ +)

※予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

より詳しい内容は, 次のページよりご確認ください。

次回, 発生予報第15号の発行日は, 2月18日(月)の予定です。

ー2月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査(本ぽ)は1月 15 日に実施

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや少

予報の根拠

(1)巡回調査の結果,発生量は平年よりやや少なかった。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

予報の根拠

(1)巡回調査の結果,発生量は平年より少なかった。

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	多

予報の根拠

(1)巡回調査の結果,発生量は平年より多かった。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・草勢低下はうどんこ病の発生を,過繁茂は灰色かび病の発生を助長するとともに薬剤の散布むらが生じやすくなり,その他の病害虫に対しても防除効果の低下を招くので,適切な肥培管理に留意してください。
- ・炭疽病,萎黄病等の罹病株は見つけ次第速やかに抜き取り,適切に処分してください。
- ・使用する薬剤は訪花昆虫(ミツバチ等)への影響日数に注意して選択してください。

(2)うどんこ病

- ・多発すると防除が困難になるので,発生初期に防除を実施してください。
- ・発病果は伝染源になるので,見つけ次第,除去し適切に処分してください。

- ・各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性については、「普及に移す技術 第93号 参考資料11」<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685977.pdf>を参照してください。

(3)ハダニ類

- ・例年、この時期は増加する傾向があります。多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施してください。
- ・発生初期は、地面に接した下葉に多く寄生しているので、下葉の除去を行ってから、薬剤散布を行うと効果が高くなります。
- ・天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ)を放飼する場合は、天敵に影響の少ない薬剤によりハダニ類の密度を減らしてから放飼してください。
天敵を利用したハダニ類の防除体系については、「普及に移す技術 第82号普及技術9」<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69958.pdf>を参照してください。
- ・有効成分によっては、防除効果の発現まで時間がかかる場合もあります。薬剤の性質(速効性、遅効性)を理解した上で防除効果を確認してください。

(4)コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、発生初期に薬剤防除を行ってください。

3 農薬使用上の注意

- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的なローテーションを組んでください。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・いちごの農薬使用回数については、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までをカウントします。
- ・「蚕注意マーク」の表示がある薬剤は、事前に周辺の養蚕の状況等に注意を払い、残効性等の特性を考慮してから使用(時期)を決めてください。
- ・農薬を散布する際には周辺作物の収穫時期に注意し、農薬が飛散しないよう対策をとるとともに、散布農薬を必ず記帳してください。

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL022-275-8982 FAX022-276-0429

E-mail byogai@pref.miyagi.lg.jp (所代表)

* 薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターのトップページ: <http://www.famic.go.jp/>